

## 令和4年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

### 県南会場

#### 科目 ③今 ここでできること～子ども「楽しい」をみつけてみよう～

- ◆ 以前の児童館は子どもがいない状況であったにも関わらず、「今できること」を前向きに推し進めたことで、今ではどこよりも素敵な施設になったと思います。何より、子どもたちが自分自身で行動しているところや地域の人たちと児童館を創り上げているところにとっても感動しました。私も否定的な考えを改めて、自分が今ここでできることを考え、子どもたちの「楽しい」を見つけていきたいです。
- ◆ 日々の支援の中でたくさん子どもたち全員が「楽しい」を見つけることを忘れがちだったと反省しました。まずは子どもたちの好きなことに興味をもつことを続けてみようと思いました。異学年の交流がある放課後児童クラブだからこそ難しい面もありますが、コロナ禍でもできることを考えて子どもたちの笑顔をたくさん見たいと思います。講師より話のあった「放課後児童苦 LOVE」は本当にピッタリな言葉であり、職員や保護者のたくさんの愛と苦勞に心を寄せて、日々の仕事をしていこうと思いました。
- ◆ 私は常にポジティブでいようと考えています。放課後児童クラブの支援員になった時からこの考えは変わりません。講義の中で「笑顔と言葉はケチらない」「みんなの応援団」という言葉があり、その通りだと思いました。私は子どもたちが安心して通うことができる放課後児童クラブであるために笑顔と優しい言葉がけを忘れず、全てを受け入れる大きな心でいようと思います。元気で素敵な「おかえり！」が似合う支援員でありたいと思いました。
- ◆ 子どもの発達段階にふさわしい遊びや多様な活動を通して楽しい体験ができるようにするには、安全で安心できる環境が大切です。また、子どもは遊びを通じて成功や失敗の経験を積み重ねて自身の力を伸ばしていくので、改めて遊びや子どもの言葉の動きから変化に気付けるようになることの大切さを学びました。今後は子どもの心情に寄り添い、子どもは遊びの中から育つことを意識した支援に努めていきたいです。
- ◆ 私の7ルールで教えていただいた「笑顔と言葉はケチらない」など、講師が実践の中で培ったものをたくさん教えてもらいました。子どもの楽しいを見つける前に、支援者が今の状況を楽しんでいなければ、子どもの楽しさを引き出すことは難しいと感じました。まずは、支援者が笑顔と言葉をケチらずに使い、職員間のチームワークを大切にしていって、子どもの「楽しい」を見つけていきたいです。